

地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ(2014年度)

ユーラシアにおける 境界と環境・社会

学際的対話による包括的な「境界」知の獲得

日時 2015年2月7日(土) 9:30-18:30 **会場** 奈良女子大学[奈良市北魚屋東町] 本部管理棟3階第一会議室

ユーラシアの境界地域で現れている環境・社会をめぐる諸問題。その根源を探ると、その多くが冷戦の文脈下で顕在化し、それが今日まで影響を及ぼし続けていることが分かります。本ワークショップでは、境界研究ポータルデータベースが重視している、独特な領域としての場所のロジックと人間社会や自然利用のあり方、そして、冷戦終焉前後でのその変化に着目し、各フィールドが抱える問題の共通性とユーラシアというスケールでの位相的關係について学際的議論を展開します。

9:30-9:45 趣旨説明

9:45-11:45

モデレーター

地田徹朗
(北海道大学)

第1部

渡邊三津子(奈良女子大学)

峯田史郎(早稲田大学)

白村直也(中部学院大学)

社会体制の変化と国境域—カザフスタン=中国国境域における土地利用とその変容

境界領域生活者の相互行為—中国=ミャンマー・ラオス国境におけるゴム・プランテーションの地理的拡大を事例に

チェルノブイリ原子力発電所事故後の民間医療支援と境域社会

13:00-15:00

モデレーター

渡邊三津子
(奈良女子大学)

第2部

花松泰倫(九州大学)

中村知子(茨城キリスト教大学)

浅田晴久(奈良女子大学)

アムールオホーツクの環境ガバナンスと3つの境界：国境、法制度の断片化、および科学と政策の関係について

“越境”が支えるモンゴルの牧畜—気候帯と行政区を超えて

インド・アッサム州におけるムスリム移民が生み出す境界

15:15-17:15

モデレーター

花松泰倫
(九州大学)

第3部

地田徹朗(北海道大学)

大西健夫(岐阜大学)

星川圭介(富山県立大学)

災害と境界—アラル海災害及び復興過程の中での「境界」の変容

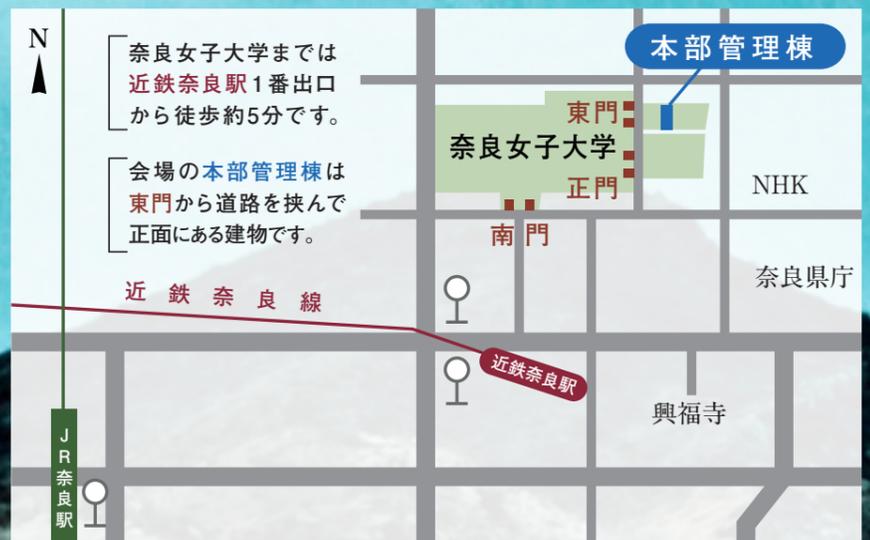
全球における行政界と流域界の齟齬と一致の定量化の試み

越境できない氾濫水—メコン・チャオプラヤーデルタの事例より

17:30-18:30 総合討論

Contact

地田 徹朗
(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター/境界研究ユニット)
TEL: 011-706-2388
E-mail: tetsuroch@slav.hokudai.ac.jp
http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrij/



主催 地域研究コンソーシアム (JCAS)

共催

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター/境界研究ユニット (UBRJ) / 奈良女子大学共生科学センター /
日本学術振興会科研費 (若手研究B) 「アムールオホーツク生態系の陸海統合管理とラムサール条約の適用可能性」 /
日本学術振興会科研費 (若手研究B) 「市場と生産者の関係からみたカザフスタン地域農業の現代的変容に関する研究」 /
日本学術振興会科研費 (若手研究B) 「戦後ソ連のアラル海流域環境史—人間活動と生態危機」